



# 東洋大学工学部 機械工学科同窓会会報

第10号  
平成23年  
5月16日発行

## 全国の同窓会会員の皆様へ

この度の大地震により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。  
全国に在住する同窓会会員の皆様と共に復興への努力を致したいと考えております。  
別紙にありますように同窓会として支援金を募集しています。  
ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成 23 年 4 月

## 工学部創設50年・機械工学科同窓会創立20年にあたって、その歩み

ガタガタと音がしてから大きな揺れが長いこと続き、そのうちに移動棚から書類が落ちて通路を塞ぎ、出入り口の近くにあった書類棚が倒れて出口を塞ぎ、やっとのことでオフィスから外に出ると多くのビルの住人が恐怖の中で地震が収まるのを待っていました。帰宅時は電車が動かず東京駅の地下で一晩過ごすという首都圏難民にもなりました。その後の報道で知る地震、津波、原子力発電所事故による甚大な災害にはびっくりするとともに心が痛みます。

平成 23 年 3 月 11 日に発生しました東日本大震災に被災されました皆様にお見舞い申し上げますと同時に一日でも早い復旧・復興をお祈りいたします。

折りしも、この大震災の年に東洋大学工学部は創設 50 周年、機械工学科同窓会は創立 20 周年を迎えることになりました。

工学部は緑豊かな林の内の川越校舎で、入学式としては時期外れの昭和 36 年 5 月 25 日に機械、電気、応化の 3 学科合計約 300 余名のもとでスターとしました。当時は木造平屋建ての校舎 3 棟と学生食堂を兼ねた学生寮と建築中の旧 1 号館の建物、いう小さな校舎で、通学の池袋から鶴ヶ島へ向かう電車も 1 時間に 1 本という状況でした。

あれから 50 年の歳月が流れ、今では川越キャンパスにはたくさんの校舎が立ち並びすっかり様変わりとなっています。機械工学科の卒業生も今や 7640 人にもなっております。

しかしながら、工学部の卒業生が出てからも長い間、機械工学科には同窓会という組織が無く卒業生間の繋がりが出来にくい状態が続きました。この状況を何とかしなくてはと卒業生の有志が動き、ようやく工学部創設から 30 年目の平成 3 年に、「卒業生、教職員、在校生等の親睦を図ることを目的」とした「機械工学科同窓会」を発足し第 1 回機械工学科同窓会が平成 3 年 11 月 11 日川越キャンパスの 30 周年記念館の 4 号館にて開催されました。この同窓会には先生や卒業生が約 200 人集まるという盛大な会でした。

発足当初は、卒業生名簿などを発行して新卒業生を勧誘するなどしてきましたが、個人情報の開示制限から名簿の発行が出来にくくなると活動範囲が狭まり、新卒業生の入会率が減少してきました。一方、同窓会総会への出席率も年々悪くなってきました。その対策として平成 17 年より同窓会



機械工学科同窓会会長  
第 1 期生 太田 和彦



の会報を年1回～2回発行し、更に平成20年からは2色刷りとして卒業生に母校や同窓会への関心を持ってもらうように努力してきました。

一方、平成18年からは工学部各学科同窓会集合体の工学部連合育成会（現 川越キャンパス育成会）が発足して、大学の支援も受けて在校生から、順次卒業生の支援も同窓会と一緒に活動をしてきています。これにも機械工学科同窓会から副会長や理事をだして育成会をサポートしています。

東洋大学の卒業生は他の大学に比べ母校との繋がりが希薄であると言われております。

同窓会は卒業生の繋がりを強化する一貫として同期会の開催をスムーズに出来るよう補助金を出して応援をしてきました。最近はこの情報が伝わり、同期会の開催も多少活発になり大変喜ばしいことと思っております。

今年には工学部創設50周年、機械工学科同窓会創立20周年という記念すべき年に当たりますので、同窓会として同窓生の繋がりをつくるチャンスを準備しようと、この秋に「機械工学科合同大同期会」を計画しました。開催に当っては震災のあったことから延期の話もありましたが、大学側が工学部創設50周年記念式典を10月1日に実施することに決めましたので、4月の幹事会にて開催場所を東洋大学の白山キャンパスにあるスカイホールとし、11月に開催することで決定しました。詳細は同封のご案内を参照願います。

一人でも多くの方のご参加をいただき、この出会いから一人でも多くの人の繋がりが出来ることを期待しております。

終わりに機械工学科同窓会が皆様に愛される同窓会となるように幹事一同努力していきたいと思っておりますので皆様方のご協力のほどよろしく申し上げます。

## 3月11日のこと —— 地震発生から川越キャンパスでの出来事 ——

3月11日午後2時40分すぎ、東日本巨大地震が起きました。皆さんは勤務先、外出先、自宅などでこの地震に遭われ恐怖を感じたことと思われます。私は川越キャンパス4号館4階産学協同教育センターで仕事をしていました。はじめはゆっくりとした小さな横揺れの振動でいつもの小さな地震かと思っていましたが、直ぐに大きな揺れが数分間、計ったわけではありませんがかなり長い時間揺れが続きました。部屋の中では、白板が落ち、たくさんの書物が入った書棚が数センチ移動し、天井の照明器具が今にも落下しそうでした。今まで経験のない大きな地震に部屋の中にいた人はしばらく行動を取れませんでした。中でも阪神大震災を経験した方は呆然としてその場にしゃがみこんでしまいました。

幸いなことに川越キャンパスの建物はほとんど損傷を受けず、停電、断水もなくしばらく静かな時間がありましたが、数分後に「大きな余震の恐れがあるので建物の中にいる人はグラウンドに集合してください」との館内放送があり、あちらこちらの建物から教職員、学生が4号館前の広場に集まり、地震の恐怖を語り合っていました。

この場での地震に関する情報は、誰かが持ってきたカセットデッキのラジオからの情報を集まった人々が聞くことと、テレビを見た事務部の職員の情報のみでした。集まってきた人が携帯電話で家族等の情報収集を行ったところ、地震発生から数分以内にアクセスした人は通話できたようですが、それ以後は全く不通となりました。後日の話ですが、携帯会社は通話制限をするので、何回かつづけてアクセスすると繋がった場合があると聞きました。

しばらく4号館前の広場で恐怖の体験談などを語り合う間にも頻りに余震が起きましたが、5時ごろになり日が落ちると共に寒くなり、集まった人々は余震の恐怖より寒さに耐えきれず各自の建物に戻って行く人も多くなりました。



ここで新たな問題が生じました。川越キャンパスに残っている学生、教職員の帰宅のことです。川越キャンパスの通勤通学の生命線である東武東上線が不通となり、復旧の見込みが立たないとの情報です。いつ復旧するか分からず大学としての対応が必要となりました。

6時過ぎに館内放送で、学内に居る人は7号館1階の演習室に集合するよう再度館内放送での指示がありました。大きな余震が来ることが予想されたためキャンパス内で最も新しい建物に全員を集めることと、キャンパス内に残っている人数の把握と以後の対応を事務局として検討したようです。

7時頃には演習室に100名近くの学生が集まり、設置されている大型の画面にテレビ局の情報を映して皆で見えていました。この時点では、津波や原発の事故のことは報じられず、首都圏の交通情報と都内の地震の被害状況が伝えられていました。

この頃に空腹を凌ぐよう、大学で備蓄してあった飲料水と保存食（アメリカ製のビスケット）が一人一個あて配布されました。このビスケットはカロリーが高いので一度に沢山食べないようにとのアナウンスがありびっくりしました。アメリカの軍人用に開発された食品で、少しずつ食べて命を長らえる食品かなと妙な考えを巡らせました。その後、熱湯をいれて15分ほど待つと五目ごはんが出来るレトルト食品も配布されお腹は満たされました。また、学内に泊まることを想定して備蓄されていた毛布が配られ、女性専用の部屋も用意されました。

また、入間市にある西武文理大学の学生十数人が、鶴ヶ島駅で立ち往生しているのを東洋大学で面倒を見てほしいとの要請があり、近隣の避難場所としての役割を少し果たしたようです。

10時過ぎになると交通機関の復旧が徐々に伝えられてきましたが、残念なことに東武鉄道は本日中の復旧はないことが確定的となり、残留していた学生、教職員は帰宅困難な難民となることが決定的となり。学生は椅子をつなげたベットや床の上で寝る準備をはじめ全員思わぬ体験をしたことと思います。

私は車で登校していたので、インターネットでの交通情報を参考に都心への渋滞が多少解消してことを確認して10時過ぎに大学を出て、渋滞には巻き込まれず無事帰宅できました。

以後の状況は事務局からの伝え聞きですが、次の日には復旧した交通機関を利用して帰宅した学生や、何時もの通り研究室で研究を続けた学生などいろいろいたようです。キャンパスの被害状況は、建物は一部ひび割れが見られた以外ほとんど損傷を受けませんでした。室内にあった精密機器特にバイオ・ナノセンター内の分析機器が大きな損傷を受け研究に支障を来しています。

今回の震災を体験していろいろなことが明らかになりました。まず、非常時の大学の対応が意外(?)に完備していたことです。ただし、今回は春季休暇中でキャンパス内の学生が少なかったことでスムーズに対応が進んだと思われませんが、もしも授業期間中であると千数百人の学生がキャンパス内にいることや、被害が広範囲になった時には、近隣の住民も避難してくることが予想されます。

また、停電や断水が起こった時の対応などいろいろな状況に応じたシミュレーションをして準備をする必要があると痛感しました。

ここに、私が3月11日に見聞きしたことを書き記しましたが、この日を境に皆様もご自身の周りの状況を鑑みて、非常時の家庭内や社内での対応をご相談されことを薦めます。

第一期生  
清澤 文彌太 記



## 現況報告

### 萩野谷 力さん

#### 東日本大震災のお見舞い

このたびの震災で被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

以前、東北地方で接した人々の温かいおもてなし、三陸地方の美しい海岸など、記憶に残っています。一日も早く元の姿に戻られるよう、切にお祈り申し上げます。

#### 思いのままに振返って

機械工学科第一期卒業する半年程前は東海道新幹線が出来、東京オリンピックで沸き立つ中、上原先生のご指導で卒業研究を行なった思い出が強く残っている。それは、先生の問題解決の考え方が後の会社生活で「ものづくり」に大いに役立つ事になったからだ。

入社した椿本チェーンでは自動車エンジン用チェーンシステムの技術開発を担当する。小形で高性能、信頼性と言った高いニーズに応えるべく、システムを多面的に

と言った高いニーズに応えるべく、システムを多面的に考え、課題抽出し、切削加工・特殊熱処理等を駆使した試作品を十分に実験検証して商品化する。付加価値の高い商品造りに微力ながら貢献できたものと思っている。この技術が発明協会会長奨励賞を受賞し、今では後輩達によってさらに磨きかけられ世界の自動車の35%に使われている。

現役を退くも技術研修「つばきテクノスクール」を10年に渡り勤め若手技術者から活力をもらうことが出来た。

現在は町内会長として、多くの人との出会いを大切に、地域の活性化に努めて行きたいと思っている。



### 関口 和男さん

昭和42年卒業 上原研究室  
勤務先:三井精機(株) 7年 (株)ニフコ 29年勤務

#### 最近思うこと (憂いと希望と感謝)

三月十一日発生した、東北関東大震災と福島原子力発電所の危機的状況のニュースを聞きながら、この原稿を書いています。

私の親戚も福島県須賀川にあり、大地震後六日目にやっと電話が通じ、無事であることが判りひとまず安堵しました。今は何も動けないので、励ましの声をかけるだけです。もし同窓生の中に災害を被った方々もおられるとしたら、同窓の皆で励ましの声を、先ず送ろうではありませんか。

私は勤務先で、生産技術、製品開発、工場の運営、合弁企業の設立等に携わってきましたが、四十歳から約十年の単身赴任も経験しました。そして六十歳で会社勤めを終え、今年で九年目を迎えます。現在、妻と子犬と私の三人(?)家族での生活です。

社会人となった頃は、車が大衆車として発売され、高度成長時代の屋台骨として、成長して来ました。同時に種々分野の企業が成長の波に乗り、ものづくりの長として、世界に確固たる地位を築いたかの様に思いました。私の二番目に就職した会社も同様で、世界各国に工場をつくり、日本から進出した企業だけでなく、地元企業とも根深く商売をして上場企業として恥ずかしくない業績を毎年残しています。

単身赴任の間は「仕事」と「残してきた家族」と「自分自身の生活」のバランスをとるのに大変でした。この間にお袋を乳がんで亡くし、親父も自分で自分の事が出来なくなっていましたので、全て家の事は、妻に頼り切っていました。仕事での達成感とは別に、何か大事なものを置き忘れてきた様な虚しさも同時に抱く様になりました。

を置き忘れてきた様な虚しさも同時に抱く様になりました。私達の様な働き蜂が、支えてきた日本の社会が、家族や、年金福祉、企業の在り方、物づくりなどの面で、次第に壊れてきています。一方、便利な世の中にどっぷりと浸かり、スイッチ一つで、食事が出来、欲しい物が手に入る世の中は今回の東北関東大地震によって、その脆弱さを露呈したかの様にも思われます。水道や電気、ガソリン、高速道路などが前提になっている現代の繁栄は実に脆いものだと思います。

それでも希望があるのは、世界が称賛と尊敬の言葉で日本人を礼賛している「思いやり」と「我慢」と「礼節」の心だと思っています。

これをバネに、「物」が溢れている世の中から、日本人の持っている「心」を育む世の中になったら、新しい日本に生まれ変わるのかな～とも考えたりします。

無事第二の人生を歩んでいけるのも、これまでお世話になった多くの方々のお陰と感謝しながら生活しています。そして感謝のお礼に、何事もまず自分自身ができることから始める。例えば、社友会の理事として、町内会の役員として、叔母を介護しながら孫の世話をしている妻の手助けをしながら等。そして卒業以来付き合い合っている硬式テニスの仲間の加藤さん(河田研)野瀬さん(電気四十二卒)柴田さん(応化学四十二卒)と互いの元気を確かめ合いながら月一ゴルフを楽しんでいます。

三月十八日 記





## 伏見 信幸さん

昭和44年3月卒業 大越研究室  
勤務先: 日本貿易印刷株式会社 在職年数: 11年

1. 現在どのような仕事・生活ライフをしていますか？  
また、これからどのような仕事や生活ライフを望んでいますか？

岡本工作機械を早期退職した後、現在の日本貿易印刷株式会社に転職し、現在は畑違いですが総務部の責任者として、社員210名の管理をしています。

65歳を迎えることを期に退職し、夏は故郷の北海道で海と山と温泉を満喫し、冬は横浜で過ごす予定です。

2. 大学時代を振り返っての感想

下宿生活で得られた先輩たちとのコミュ(飲み)ニケーション、クラスメートの溜まり場としての情報交換、クラブ活動での仲間たちなど多くの方々に関わりが持てたことや、パチンコで小遣いを増やしたり、食べれなくなり友人の弁当を頂いたことなどが、社会人になって役に立ったと思います。

また、好きだった機械に触れられたことや学んだ事柄が、就職する上で、仕事をする上で役にたちました。

3. 同期の皆さんに宛てたメッセージ

学生時代の夢多かりし頃の気持を持ち続けることが出来ました。ありがとうございます。

4. 在校生に先輩としてのコメント

人生で納得感・充実感を得られるのは、如何に多くの人の関わりが持てたかではないでしょうか。

その基礎作りが学生時代のコミュニケーションとと思います。確立していない自分探しに協力してくれるのが仲間たち、無報酬で自分の長所や短所を徹夜で議論し、論してくれるコンサルタントです。多くを語り合ひましょう。



## 鈴木 貴彦さん

平成8年3月卒業 笠原研究室  
勤務先: 株式会社 多賀製作所 在職年数: 15年

1. 現在どのような仕事・生活ライフをしていますか？  
また、これからどのような仕事や生活ライフを望んでいますか？

事業内容は、自動車部品製造(主に、ブレーキ周辺のばね)及び金型設計・製作で、その中で自分は入社当時から技術課に配属され、金型の設計製作に携わってきました。現在は管理者として、人を扱うことの難しさを感じる毎日を送っています。

自動車業界は他業種と同様に急速なグローバル化(現

調化)が進んでおり、海外拠点を持たざるを得ない状況になりつつあります。弊社も6年程前に中国に進出し、今年もタイに新工場を設立予定です。自分も出張ベースですが、たまに中国工場に行き指導などをしております。

この現状、入社当時には全く予想もしていなかった訳で、世の中の動くスピードの速さに驚くばかりです。

世界を相手に日本の製造業としてどうあるべきなのかを考えながら、今後も頑張っていこうと思います。

## 吉田 一也さん

平成14年3月卒業 光機能計測研究室  
勤務先: 株式会社 多賀製作所 在職年数: 9年

1. 現在どのような仕事・生活ライフをしていますか？  
また、これからどのような仕事や生活ライフを望んでいますか？

業務内容は、自動車部品(主に、ブレーキ部のバネ)の製作です。

私は、入社当時から品質保証部 検査課に所属しており、主に製品の合否判定をする業務を行ってきました。

現在は、係長に昇進して後輩に検査業務を教える立場になっています。

また、お取引様で発生してしまった不具合の対処なども行うこともあり、忙しい毎日を送っています。

ここ最近、『リーマンショック』、『就職氷河期の再来』

など、製造業にとっては、あまり良くないニュースばかり耳にしますが、当社は、そんな荒波に負けないようにと頑張っています。

努力の甲斐もあり、車業界でありながらも今期はかなり良い業績であり、びつくりするかもしれませんが、上海万博への社員旅行も実現することが出来ました。

この勢いを停めることなく、仕事があるだけでも幸せであると感じながら、今出来ることを地道に頑張っていきたいと思います。

生活ライフは、自分の気持ち次第、努力次第でまだまだ向上出来るものと思っています。



### 1. 現在どのような仕事・生活ライフをしていますか？ また、これからどのような仕事や生活ライフを望んでいますか？

附属高校で教員として務めています。今年度は2年理系クラスを担当しています。圧倒的に男子生徒が多い中、毎日奮闘しています。生徒たちは素直でとてもかわいいです。その生徒たちが、将来社会に出て活躍できるきっかけをつくるのが私の仕事だと考えています。これからも微力ながら生徒たちの将来に貢献できるよう努力し続けていきます。

### 2. 大学時代を振り返っての感想

夢の実現へ向けて努力した4年間でした。教職課程や教育実習、塾講師、家庭教師のアルバイトも経験できました。先生方や友人、家族、周りの人たちの協力なくては夢を実現することはできませんでした。大学生活はこの私の礎となっています。

### 3. 同期の皆さんに宛てたメッセージ

早いもので卒業して13年が過ぎました。なかなかお

会いできませんが、みなさまお変わりなくお過ごしのことと存じます。くれぐれも御自愛のほどお願い申し上げます。

### 4. 在校生に先輩としてのコメント

2010年大卒就職率60.8%に対し工学部は就職率90%以上、求人が1人に対して6社と聞いています。就職活動等は早めに先生方に相談することをお勧めします。

また、学生は時間にゆとりがあるので趣味やアルバイト等に挑戦し、将来に繋がる様々な経験を積んでいただきたいと考えています。

### 5. 工学部創設50周年に当たって、どんな感想をお持ちですか。どんなことでも結構です。

就職氷河期が続く時代に工学部の就職率が90%以上というのは、創設50周年の伝統、企業と繋がりのある大学でなければ成しえないことと思います。これも先生方や先輩方が作り上げた実績の賜物だと感じております。

## ヤク久しぶり！3年ぶりに4期同期会開催

去る3月26日、上野不忍の池そばの蓬莱閣にて、4期同期会を開催しました。3年前は上野の山の桜は満開だったのに、今年はまるで咲いてはいけないうも思っているのか蕾がかたく、寂しい光景でした。

東日本大震災の直後、日本中が不安の中、開催すべきか否か迷いましたが、「暗く沈んでいてもしょうがない。少しでも明るく日本を盛り上げよう」とのことで、開催に踏み切りました。3年前の1回目の同期会では、19名の出席がありましたが、今回は東日本大震災の影響もあって、出席の予定が急ぎょ欠席になったりして、最終的には9名の参加となりました。(ちなみに、案内状送付75名、返信あり45名、前回に引き続き参加6名、初参加3名でした。)

しかし、宇都宮、静岡、さらに今回も遠く沖縄から駆けつけてくれました。

2回目の同期会ということもあって、最初から和気あいあい、会が始まる前から盛り上がっていました。久住幹事の開会の辞に続いて、2名の物故者の冥福を祈って黙祷を行い、栗田幹事の音頭で再会を祝して乾杯。久住幹事より各人に資料(同期生の近況、卒業アルバムのコピー、連合育成会のパンフレット等)が配布され、これらの資料をもとに、工学部(理工学部)の現状、機械工学科同窓会、連合育成会の活動等々の報告があり、その後自己紹介を兼ね近況報告に移りました。

一級小型船舶操縦士のライセンスを取得しクルーザを買うから一口乗れという人、60の手習い?でピアノを始め、また趣味で600坪の畑を耕す人、海外赴任していたブラジルを再訪して旧交をあたためてきた人、囲碁にのめりこんでいる人、タイに技術指導に行き、仏教の素晴らしさにめざめた人、テニスに夢中人な人、また沖縄のO君は医療活動を続ける傍ら、老人施設を作る抱負を話してくれました。

日頃皆それぞれに、充実した生活を送っていることが分かりました。

ともあれ、趣味の話、人生観、家族の話等々学生時代と変わらぬ議論?で4時間あまりは瞬く間に過ぎてしまいました。通常ではない状況下でしたので、2次会はやめ、今回は家路を急ぎ、散会としました。

ところで、今回の震災で気がかりは気仙沼在住のT、O君。ネット情報では現在行方不明だとか。生きているのを見たという人がいるのは僅かな希望ですが、何とかどこかに避難していることを願っています。

被災された方々は失意のどん底にあると思います。そこから強い気持ちを持って立ち上がり、新たな出発の機会が与えられますようにお祈りいたします。

(文責:栗田 元次)





## 平成 22 年度卒業式

平成 22 年度 10 月卒業の卒業式・学位記授与式が、平成 22 年 9 月 25 日に白山キャンパスでおこなわれました。3 月卒業の卒業式は例年通り北の丸公園の日本武道館で行われる予定でしたが、直前に起こった東日本大震災の被災を考慮して中止となりましたが、卒業証書授与式は、川越キャンパスで工学部卒業生が集合し、学科別に卒業証書授与式が行われました。

機械工学科では、研究室毎に指導の先生から直接卒業証書が手渡され、卒業を実感し、社会に出る心構えを新たにした学生が多かったようです。

その後、優秀賞の発表があり、日本機械学会畠山賞が小林直生君に学科主任の和田教授から授与された後、工学部育成会の優秀賞が機械工学科同窓会大田会長から 田中創平君に授与されました。校友会奨励賞は荻原優一君に菅沼校友会会長から白山キャンパスで授与されました。

なお、卒業生数は 9 月卒業は、全学で 177 名、工学部 107 名 機械工学科 27 名、3 月卒業は、全学で 5997 名、工学部 793 名 機械工学科 126 名 (内女性 1 名) に卒業証書が授与されました。

また、大学院工学研究科は機能システム専攻前期課程 28 名、後期課程 2 名が修了しました。

機械工学科卒業生の進路先は、企業 95 名、大学院進学 5 名、公務員・教員 2 名、その他 9 名、未定 15 名となりました。

## 平成 23 年度入試状況

平成 23 年度の機械工学科の入学試験は、平成 22 年 11 月から指定校、運動選手などの推薦入試から始まり、平成 23 年 3 月の 3 月入試ですべての入試が終了しました。一般入試の志願者、合格者数は以下の通りでした。

方式	志願者数	合格者数	倍率
3 科目総合入試 (A1 方式)	273	123	2.2
3 科目総合入試 (A2 方式)	243	57	4.3
センター利用入試 (B 方式)	576	175	3.3
3 月入試	56	19	2.9
合計	1148	374	3.0

なお、4 月に入学手続きをして入学した新生は 理工学部全体で 827 名、機械工学科 179 名でした。

## 京北学園との合併

数年前より検討されていた学校法人東洋大学と学校法人京北学園が平成 23 年 4 月より合併して東洋大学が存続法人となりました。元々東洋大学も京北学園も創設者は井上円了であり、第 2 次大戦前までは同じ組織で経営を行っていましたが、戦後の混乱で両者が分離独立して現在に至っていました。

京北学園は、京北高等学校、京北白山高等学校 (旧京北商業)、京北中学校、京北幼稚園を擁する地元密着の学校でありましたが、中学、高校では少子化、男子校、周辺の多数の私学校などの影響を受け志願者の減少と入学者の質の低下など多くの問題を抱え、更に施設の老朽化が進み多く問題解決が早急に望まれていました。一方、東洋大学としては、以前に購入した第 2 白山キャンパス (白山キャンパスから徒歩で 15 分の距離) の活用と隣接する京北の敷地の活用を勘案して合併を進めていたと思われます。

今後の施設等の活用として、①平成 23 年 4 月より白山にある京北高校、中学を東洋大学が購入した北区赤羽台の校地 (廃校になった区立中学校の跡地) に移転 (すでに実施済み) ②白山キャンパス隣接の京北学園校地に大学の 125 周年記念校舎を建設し、白山第 2 キャンパスの大学院、国際地域学部を移転 ③白山第 2 キャンパス跡地に京北高、中学校校舎を新設して北区赤羽台より移転 ④北区赤羽台の校地に川越キャンパスの総合情報学部を移転する。

以上のような移転計画が作成され、実施がはじまっています。この計画は 4 年間で完了するとの法人の予定ですが先行き不透明な部分もあるようです。東洋大学の発展になるよう祈っています。



# 機械工学科同窓会総会のお知らせ

機械工学科同窓会の総会を下記の通り開催いたしますので、皆様お誘いの上ご出席くださいますようお願いいたします。なお、昨年度より川越連合育成会の総会が6月に開催されることとなりましたので、この日に機械工学科同窓会総会も開催します。

また、連合育成会主催で、川越キャンパス開設50年に向けてのシンポジウムを開催いたします。皆様お誘い合わせの上ご出席ください。

## 記

日時：平成23年6月18日（土）

### 1. 機械工学科同窓会総会

時間：12時00分～13時00分

場所：1203教室（1号館2階）※変更の可能性があります。

- 議題：1. 平成22年度活動報告及び会計報告  
2. 平成23年度活動計画（案）及び予算（案）  
3. 記念合同大同期会について  
4. その他

### 2. 川越キャンパス連合育成会大会

時間：14時00分～14時40分 場所：421教室（4号館2階）

### 3. オープニングセレモニー（大学主催）

時間：15時00分～16時00分 場所：721教室（7号館2階）

### 4. 連合育成会主催・50周年特別企画イベント ◆こもれビー落語会

時間：16時30分～18時00分 場所：421教室（4号館2階）

### 5. 合同交流会

時間：18時30分～20時30分 場所：川越キャンパス食堂 会費：無料

## 会費納入のお願い！

機械工学科同窓会は卒業式の時にお支払い頂いた皆様の終身会費で運営しております。

今回皆様のお手元に届いた会報も終身会費から作成されたものです。

会報は原則として終身会費を納入された方にお送りしておりますが今回は工学部創設50周年・同窓会創立20周年の記念の年ですので特別に卒業生全員にお送りしております。

しかしながら同窓会の財政は厳しい状況にあります。今後とも同窓会を続けていくためにも皆様方のご理解とご協力が必要です。

未だ会費未納の方は終身会費として5000円を同封の振込用紙で下記の郵便振替口座に納入をお願いいたします。

郵便振替口座 00150-2-752854 東洋大学工学部機械工学科同窓会

### 【編集後記】

突然襲った東日本大震災、皆様の日常生活にも変化が起こっていることと思います。この会報も工学部創設50年、同窓会設立20年の記念号とするよう卒業生の皆様にいろいろな原稿を依頼しました。しかし、震災が起こったことにより記念行事の見直しが幹事会で検討され、当初は中止との意見が多かった合同同期会は自粛ムードを打ち破るために開催時期を夏場の電力事情を考慮して11月に開催することに決まりました。また、記念号の発行は原稿の集まりが悪い（震災の影響？）ことなどを考慮して発行を順延することになりました。原稿をお送りくださり10号に掲載されなかった方には、大変申し訳なく思っていますが、諸般の事情を考慮してお許し下さい。次号には必ず掲載します。

この会報の企画・編集の仕事も我ら初期の卒業生が担当してきましたが、そろそろ老齢期に入り重荷になってきました。若き次期の担当者の出現を希望します。（清澤 記）

### ～同窓会連絡先～

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100  
東洋大学川越キャンパス連合育成会 気付

### 機械工学科同窓会事務局

電話・FAX:049-239-1679 E-mail:ikuseikai@toyo.jp

担当 清澤文彌太 小林康男